

保存会だより

御会
人形・保存
高祭
行
穂船
発

苦勞して制作

穂高人形の馬

昨年より穂高人形を観光客にも見てもらおうとJR穂高駅構内に展示されている人形が四月十四日小平教室の藤原國廣さんらによって飾り替えられた。場面は川中島合戦の場面から

独眼流伊達政宗像へと変わった。



人形師の小平貞男さんに飾り物を教わってきた中で「今度は自分で作るように」と言われたことから人形を制作、馬は半年間苦勞して作ったと言う。藤原さんは「満足ではないが良くできたかな? 観光シーズンに入り穂高駅を利用するお客さんに一人でも多く見て頂き、穂高人形のピールが出来れば」と期待していた。

晴天に恵まれた五月五日、大勢の観光客が列車を降り人形飾り物に目を向けながら改札口を通っていた。東京から来た三人の女の子たちは穂高人形をバックに記念写真を撮り、「良くてきてるね」と感心して見ていた。

第十回研修旅行

徳川美術館・名古屋城と熱田神宮を訪ね

ひつまぶしを堪能

今年で第十回目を数える研修旅行が、去る七月二十三日會長役員を含め四十三人の参加を得て行われた。毎年日帰りで

名勝旧跡を訪ね人形制作の参考場面制作の研修目的で行われ今回は近隣都市である名古屋市に行くこととなった。



例年になく早めの梅雨明けとなったこの日、猛暑ではあったが先ず着いた場所は徳川美術館。ここは尾張徳川家の二十二代目が美術館長を務め一万数千点もの収集物が展示されている。館内は専門ガイドの説明によって案内されてゆく中で、戦で用いられた鉄砲や

槍・十手など本物の形を熱心に見入っていた。続く長篠合戦の屏風絵からは鉄砲伝来の頃に生まれた三英傑の説明、火縄銃の「火蓋を切る」の意味、「折り紙付き」の意味を聞き徳川慶喜の戊辰戦争当時の武器又「猿面茶室」床の間の原型と茶道具は一品ずつ丁寧な説明に一同「堪能したね」と満足をしそこを後に。昼食は名物の「ひつまぶし」であった。このあと一行は名古屋城へ、金の鯱の実物大に驚きを隠せないでいた。石を引くジオラマは本物そっくりに作られており動



く人形に「引いた！引いた！」と感激。

祝膳復元では「ご馳走だなあ」と感心し武家屋敷の場面では「テレビでやっているようだ」と御駕籠に座る一幕も、昭和三十四年に再建された天守は冷房も完備された中で城内城下の暮らしが再現され、かなり勉強になったと感じた。城の石垣は諸国大名の家紋が刻まれており江戸三百年続いた尾張徳川家の権威をかいま見ることが出来た。続いて熱田神宮を参拝御本殿他社殿を拝観、境内に古来より楊貴妃の泉と呼ばれる清水社では女性が美しくなることを聞き女性参加者は楽しく水を汲んでいた。又千六百年代に建てられた西楽所や信長塀を見学し帰路に就いた。今回の旅行では、昨年までのように大河ドラマを参考に訪れてきたものとは違った形での歴史めぐりの旅となったが比較的近くで戦国時代と江戸時代の町屋風景町人暮らしなど人形場面制作には参考となる大きな収穫があり、昨年に引き続き大変好評であった。



若年層の人形制作講座、教材にも工夫

子供たちへ人形制作の作業を直に触れてもらい将来の後継者発掘につなげてゆくことを願って始まった若年層人形制作講座が小平、牛流、保尊の三教室で各地区育成会を通じ、開かれている。この講座は年一二回子供たちに楽しく行える行事として、等々力町区では毎年十二月にしめ縄講習会と餅つき大会に合わせて行っている。昨年まで手足を作ったので

今年は鎧につける手甲とし、ボール紙に新聞紙や障子紙を貼る作業であったが保護者も一緒に参加し子供たちは「楽しい」と熱中していた。

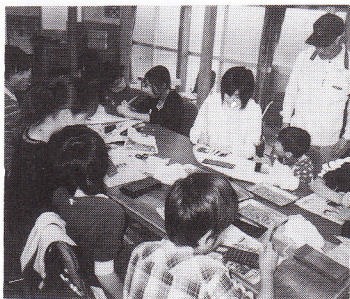
又前年度より新年会に合わせて行っている穂高区田中では、陣羽織の制作キットを前もって用意しておき、ガムテープやホッチキスで接着をする簡単な作業で完成させる行程としたことから後継者の山田孝さんは「もう少し時間があればみんなを完成に導くことが出来る。単純作業じゃないと子供はすぐ飽きるので下ごしらえが必要だ。」と次回に期待を寄せていた。



穂高町区公民館では親子で参加し鎧の制作が行われ、昨年に引き続き段ボールやボール紙に塗料を塗り工夫して鉄板のような光沢をつけた板に、穴を開け紐を通す細かい作業を行った。子供が飽きると親も手を出したりしながら制作に取り組んでいた。

今回の制作講座は、塗りや貼り付けなど簡単に終わっても次の段階へ進むのに乾燥を要し時間が取りにくいことから、前もって教材を製作しておく工夫が見られた。子供たちを集めても熱中して作り完成をさせられるように心をつなぎ止めておく努力が感じられた。

若年層として小学校児童が受ける



この講座には必ず各地区の育成会による協力が欠かせない。保存会ではこれからも多くの年中行事に繰り入れてもらうようお願いしていきたいとしている。

尚、若年層講座の日程等は左記表の通り

日時	場 所	講 師	参加人数	内 容
24・12・22	等々力町区公民館	牛流教室	39人	手甲の制作
25・1・12	穂高区田中公民館	保尊教室	27人	陣羽織の制作
25・10・20	穂高町区公民館	小平教室	12人	胴鎧の制作

人形制作研修成果発表

後継者らによる独自の場面人形苦勞の成果



文化祭に合わせて穂高人形制作教室の後継者が研修の成果を披露する飾り物が去る十一月二日より穂高神社社務所西側広場で始まった。今年で四回目を迎え十月三十日の安全祈願より始まり、建て屋舞台は建設用単管パイプのリースを使用、三教室毎に仕分けされた部材を各々で作った。

北側の建て屋は牛流教室が「楠木正成 櫻井の別れ」の

場を制作。代表の竹内さんは「歌と人形、感情溢れる表情を見て悲しさを強く感じてほしい」とうったえ、人形師牛流さんは「教室の会員は桜井駅がいいと提案があった。みんな腕を上げてきて立派に飾った。」と満足していた。

中央は小平教室による「羅生門」を制作。「去年まで小平

先生より指示を受けてきたが文化祭では自分たちでこれを決めて全て自分たちで考えて作った」と語っていた。

南側には保尊教室が制作した「会津白虎隊 飯盛山」の場。代表の山田さんは「制作に一年間かけた、時代的に新しいものを作り、広大な場面をこのスペースに飾るのに工夫し、立体的に作った。着物が地味なので人形の数を増やしたが頭は教室の



保 尊 教 室

みんなで作った。」と説明。人形師保尊さんは、「顔の表情は良くできている」と言っていた。

この日は連休の前日、天気にも恵まれ境内は菊花展も同時に開かれ、大勢の参拝客が訪れ人形の前で記念写真を撮り「素晴らしい」と感激していた。今回のこの飾り物は同月十七日まで展示された。

児童の心に響く人形飾りもの

地元の子供たちへ穂高人形飾り物の意識付けをする目的で



小 平 教 室

で行う事業で穂高南小学校校長室前への飾り物が、三月二十八日午後一時から人形師の保尊和夫さん他山田孝さんら四名の後継者らによって制作展示が行われた。

これまでに小平・牛流・保尊三教室の人形師・後継者らによって飾り換えられ、特に小学校へ飾るといふことで童話や伝記、おとぎ話、伝説などで戦ものを除いた物語場面の人形飾りを行ってきた

中で今回は十回目を数え「司馬温公瓶割り」の場面が飾られた。「温公」とは後の司馬光のことで北宋の政治家・大瓶に落ちた友を救うために大石をもって助け出す、大切な瓶を割ったのでしかれることを覚悟していたが、父親は温公をほめて、改めて命の大切さを教えたと伝わるもので、日光東照宮の陽明門に彫刻されている

宮澤純子校長先生からは「学校で身近に地域文化に触れることは大切なことだ、保存会の方がやってくれるので有り難い、始業式に温公の話をしたい。子供たちもそのときどうしただろうかを考えることが出来る。子供たちが見に来てくれるしお客さんにも必ず見ていってくれる。又これから一年間楽しませてもらいます。」と喜んでいた。児童からは「友だちを救う勇気に感動した」と話していた。



テレビ放映された穂高人形・御船祭

去る十月十三日午後三時からSBC放送のダイドードリンコスペシャル「日本の祭り」で御船祭が紹介された。ダイドード

ドリニコが日本の祭を紹介しながら失いかけている祭の復興と次世代に向けて日本文化の継承を図る目的でこれまでに十年で二百回余りの祭を紹介してきた。今回の内容は主に御船祭で大人船のぶつけ合いに至るまでの御船・人形制作、これに関わる睦友社・健壯団・人形師とその後継者を紹介。それぞれの御船を作り上げた誇りと自信、仲間達との絆を映し出していた。

ナレーターでエジプト考古学者の吉村作治氏は冒頭「最近少し気落ちしている日本を復活させるのは祭りのエネルギーを日本中に広めることだと感じている。これまで参加させていただき祭と人々の中に日本文化の源を感じた。」と述べ、番組の締めくくりに「御船祭に人々が一体となっていた。日本一の迫力であった。祭を通して未来の日本人に語り繋げていきましょう！」と力を込めて絶賛していた。

着物御寄進御礼

御船や人形の飾り付けに必要な着物等の寄進を例年のごとく行っております。今年度は遠く東京都よりご主人が神主をされていたが数年前に他界され跡継ぎがられないこと事から、装束・着物など全三十七点の御寄進をいただきました。

東京都 田中香代様

又松本市の方からは蚊帳三張りをお持ち寄りました。

松本市 辻本幸雄様

今後の人形制作飾り物へ有効に使用させていただきます。心より厚くお礼申し上げます。

尚、着物についてのご寄付は引き続き受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。